

春の交通安全キャンペーンのアンケートの中で「渋滞時の心理」についての要望がありましたので、今月は「渋滞」について紹介します。

## 1. 渋滞

NEXCO東日本では渋滞の定義は40km/H以下で低速走行、あるいは停止・発進を繰り返す車列が1km以上かつ15分以上継続した状態と定めています。

思うように走行できない渋滞には様々な危険が潜んでいます。今回は渋滞の発生のメカニズムや危険ポイント、渋滞時の安全走行について紹介します。

### ■渋滞はなぜ発生するのか

高速道路の場合、渋滞は大きく分けると、交通量がキャパシティ以上になり発生する「交通集中渋滞」、工事規制に伴い発生する「工事渋滞」、交通事故が引き金となる「事故渋滞」の3つに分けられます。NEXCO東日本が管轄するエリアでは、全渋滞の約70%が「交通集中渋滞」となっています。

この交通集中渋滞が最も起こりやすい場所が、上り坂およびサグ部で50%以上を占めています(図1)。この場所では、なぜ渋滞が起こりやすいのでしょうか。

それは図2で示すように、坂道に差し掛かると自然にスピードが落ち、後続車との車間距離が詰まります。この時、後続車が車間距離を詰めていると、ブレーキを踏むこととなります。これが後方に連鎖していくことで渋滞が発生します。

### ■渋滞での危険要因

渋滞に陥ると運転者はイライラし、無謀運転や割り込みといった攻撃的な運転をしがちになります。それは周囲にいる交通パートナーも同じです。こうした状況では事故が起こりやすいことは容易に想像できます。だからこそ、一層の注意が必要となるのです。

#### ●運転者の危険要因

- ①急ぎの心理による焦り
- ②急な割り込みなどの危険
- ③脇見運転
- ④漫然運転

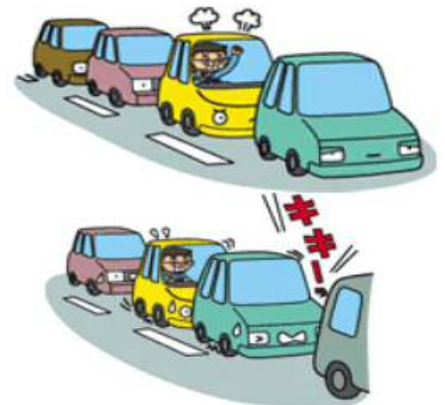
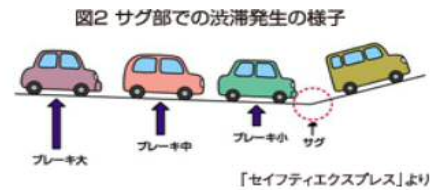
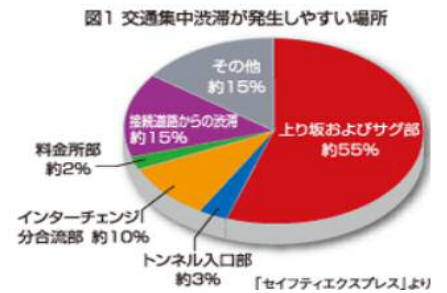
#### ●交通パートナーの危険要因

- ①前車の急ブレーキ
- ②車線変更して割り込んでくる車
- ③脇を通り過ぎていく二輪車
- ④渋滞車両の間からの歩行者の飛び出し

### ■渋滞ではここに注意しよう

#### ●裏道は使わない

裏道は車歩道の区分がない所が多く、歩行者や自転車が道路の中央に出てきたり、駐車車両の陰から歩行者や自転車が飛出してくるなど、危険要因が沢山あります。渋滞しているからといって、安易に裏道を通らないようにしましょう。



### ● 渋滞を抜けたときこそ慎重に

渋滞を抜けたときには、これまでの遅れを取り戻そうと、必要以上にスピードを出して運転しがちです。スピードを出すことで、事故の危険は大きくなるだけでなく、事故の被害も大きくなります。渋滞を抜けたときこそ、慎重な運転を心掛けてください。

### ● 車間距離をとる

渋滞では脇見や漫然運転での追突事故の危険が高くなります。こうした事故を防ぐには、前車が急ブレーキをかけても対応できるよう十分な車間距離をとることです。また、2、3台前の車の動きも注意しておきましょう。

### ● 渋滞の情報を積極的に収集

渋滞に巻き込まれないよう運転前にしっかり情報を収集しておきましょう。走行中も道路情報板やラジオ、カーナビなどで、渋滞情報を積極的に活用し、刻々と変わる道路状況に対して柔軟に対応しましょう。



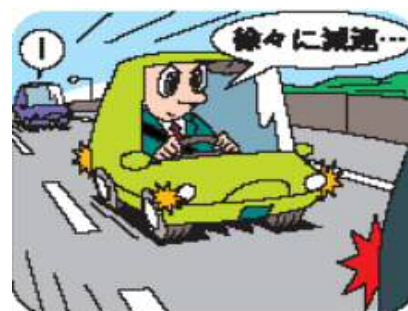
### ● 早めの休憩と給油を忘れずに

渋滞に巻き込まれると車が思うように進まない為、トイレ等の問題が出てきます。又、ガス欠で止まってしまった場合は渋滞は一層ひどくなり、周りにも迷惑をかけることとなります。渋滞が発生しているときや予想される場合は、無理をせず早めの休憩と給油をしましょう。



### ■ 渋滞を吸収する走行を！

渋滞吸収走行とは、渋滞に加わる車の数を減らそうという走り方です。具体的には、あらかじめ十分な車間距離をとり、交通量が増えてきても前車との車間距離がクッションの役目を果たし、前車が大きく減速しても、ある程度の速度を保って走行することが出来るため、渋滞緩和に有効です。割り込み等があると思いますが、ゆとりを持って実施してください。又、それを実施することで省エネ走行にも繋がります。



### ■ まとめ

対策としては、今年度の交通安全標語の「時間ぎりぎり事故の元、余裕を持って安全運転 ヨシ！」の実践が大切です。

## 2. 今月のスローガン(企業開発センター交通問題研究室)

雨の日の スピード出し過ぎ 命取り  
滑りだしたら 止めれない